

令和3年10月4日

京口門だより No.96

10月に入っても日中は夏のように暑く、朝晩の涼しさとの差に体調を崩しそうです。新型コロナウイルス感染症も緊急事態宣言が解除されましたが、とまどいながら受け入れているように見受けられます。不順な気候や感染症にはくれぐれも充分注意して下さい。「横雲のちぎれて飛ぶやけさの秋」(北枝)

新型コロナウイルス感染症の流行は下火になったようにも見えますが、新たな変異株や2度のワクチン接種にもかかわらず感染してしまうブレイクスルーが見られたり、決して油断はなりません。新たな治療薬も開発が進んでいるようですが、なかなかこの感染症を抑え込むことは容易でなさそうです。

最近開かれた漢方医学の学会で、このコロナ感染症に対する治療に漢方薬が有用であるとの発表がありました。大変価値ある研究発表でしたので少し詳しく触れてみたいと思います。

発表は東北大学病院とある沖縄の病院での研究でした。東北大学病院の研究は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の陽性者で比較的初期の軽症患者で、ホテルなどの療養施設に入所した人たちに、感染を注意しながら診察し、それぞれの症状に合わせて漢方薬を服用していただいた1,000例以上の結果を報告していました。COVID-19の症状は多彩でまた変化することから、注意深く症状に合わせて漢方薬を処方したとのことでした。

本来漢方治療では感冒でもインフルエンザでも、感染した方の時期や症状に合わせて処方するのが原則で、一つの薬で治療するなどということはありません。ですから中国で発表されたCOVID-19治療の漢方薬の清肺敗毒湯などをいうのは、漢方治療の上では原則を踏みはずした薬と言わざるをえませんし、どれほどの有効性があるのか不明です。

東北大学の研究に戻りますが、COVID-19の軽症で咽頭痛を主訴とする人、咳を主とする人、微熱を主としている人、あるいは下痢を主としている人、またいくつかの症状を合併している人など、さまざまなケースにそれぞれ異なった漢方薬を投与した結果、症状が改善し無事退所することができ、重症化することがなかったと報告されていました。漢方薬の有用性が明らかとなりました。

